

刊行概要

1 名称

- (1) 港区教育史（WEB版・書籍版）
- ① 通史編
 - ② 資料編
 - ③ 暮らしと教育編
- (2) 資料でみる普及版（仮称）（WEB版）

【Web公開の考え方】

区民に身近に感じられる教育史として、新たに刊行する教育史は、刊本発行の他、Webにおいて公開することを基軸とし、区民がいつでもどこでも教育史を見られるようにする。

今回の編さん事業を契機に収集した資料は、限られた紙面での公開ではなく、デジタル化した上でWeb公開することによって、多くの資料を高精細画像で公開していく。

【参考：これまでの経過】

- ・成果物の種類については、第3回港区教育史編さん委員会で決定済（第1回編さん委員会では、①港区教育史通史編、②港区教育史（分野別編・資料編）、③港区教育史暮らしと教育編（仮称）の3種類を検討していた。その後、編さんスケジュール見直しに伴い、成果物の種類は上記の通りとして、第3回編さん委員会にて決定した。）
- ・資料でみる普及版（仮称）については、当初（スケジュール見直し前）に新たな教育史が刊行する予定であった平成31年度末に、資料の調査、収集の過程で選定された貴重な写真等を、WEBの機能を活かした形で視覚的に簡易に閲覧できるように公開するものとする事で決定している。
- ・「暮らしと教育編」は、広く区民に手に取ってもらえるよう、港区の教育史をわかりやすく主題別に新規執筆するものとして制作することで決定している。

2 判型（第3回港区教育史編さん委員会で決定済）

- | | |
|-----------|-----|
| ① 通史編 | A5判 |
| ② 資料編 | A5判 |
| ③ 暮らしと教育編 | A5判 |

3 装丁

ソフトカバー（表紙カバーあり）、函なし

※ソフトカバーにすることで、基本方針に則り、手に取りやすく広く区民に読まれるような装丁とする。

【考え方】

- ・ハードカバーにすると1巻当たりに収める章(時代)が増えて厚いものとなるが、ソフトカバーにして章(時代)ごとに巻を分けることで、読みたい時代をすぐ見つけることができる。また、1冊当たりのページ数が少なくなることで、持ち運びなどの利便性も高くなるほか、ページ割れなどもしにくいことから、保存性も維持できるため。
- ・表紙にカバーをつけることでデザイン性を持たせることも可能となる。
- ・既刊教育史とはっきりと異なる装丁とし、新規刊行であることを明確にする。
- ・本体価格を抑えることで有償販売価格に反映し、区民の購入負担を少なくする。また、増刷対応も行いやすくなる。

4 発行部数

- | | |
|-----------|------|
| ① 通史編 | 300部 |
| ② 資料編 | 300部 |
| ③ くらしと教育編 | 300部 |

【配付及び寄贈先について】

昭和62年の刊行から約30年が経ち、社会背景が大きく変貌し、Webが広く利用されており、今回の編さんにおいてはWeb公開を基軸とすることから、配付及び寄贈先は港区関係者、22区教育委員会、22区内中央図書館、区立小中学校、区立幼稚園、私立小中学校、私立高等学校、私立幼稚園等とする。なお、配布及び寄贈先は別紙資料5-3「刊本配布・寄贈先」のとおりとする。

5 販売

区民等一般の方が刊本を入手できる機会を設けるため、有償販売を行うものとする。

6 組体裁 (モノクロとすることは第3回港区教育史編さん委員会で決定済)

- | | | | |
|-----------|-----|------|----|
| ① 通史編 | 縦書き | モノクロ | 1段 |
| ② 資料編 | 縦書き | モノクロ | 1段 |
| ③ くらしと教育編 | 縦書き | モノクロ | 1段 |

※いずれも、WEB版は 横書き 図版等はカラー

7 字数

- | | | |
|-----------|---|-----------------------------|
| ① 通史編 | } | A5 1段組 約800字を想定 (13Q 約9.2p) |
| ② 資料編 | | |
| ③ くらしと教育編 | | |

※別紙「刊本体裁イメージ」参照

8 刊行年月（第3回港区教育史編さん委員会で決定済）

資料でみる普及版（仮称）	平成32（2020）年3月
港区教育史 通史編・資料編	平成33（2021）年3月
港区教育史 くらしと教育編	平成35（2023）年3月

9 構成

（各巻共通）

- ・刊行のことば
（教育長等のことばを掲載する。刊行の経緯や成果物に込めた思いなど。）
- ・監修のことば
（監修者（編さん委員長等）のことばを掲載する。編集方針など。）
- ・口絵
（写真や図版をカラー頁で数点掲載）
- ・目次
- ・凡例
（表記などのルール）
- ・章・節・項
- ・参考文献、引用文献
（執筆に当たり参考にした文献一覧）
- ・執筆者略歴
（執筆者の所属、肩書など）
- ・索引
（読者の調べものや関心に応じた利用に対応するため特に重要な言葉を一覧とし、掲載頁を記す。）
- ・編さん組織及び関係者一覧
（編さんに関係してインタビューや資料提供など協力いただいた方々の名前一覧）
- ・奥付
（発行年月日、発行者など）等
※上記は例示でかつ、順不同とする。

①本文の構成は、章、節、項、目、大見出し、中見出し、小見出しの7種類とする。

②一つの大見出しが長くなる場合は中見出し、小見出しを設置し、読みやすい長さに区切る。

③本文とは別にコラムを配置してもよいものとする。